

| | |
|-------|-----------------------------|
| 項 目 名 | 保護着の使用とベット柵使用 |
| 表 題 | 入所時すでに保護着を着用し介護抵抗を示すケースの関わり |
| 施 設 名 | 白浦茜荘（介護老人福祉施設） |

1 利用者の状況

84歳 女性 要介護度4 痴呆性老人の日常生活自立度

【病名（既往症）及び病状】

左肩、左股関節骨折 車イス使用リュウマチ(膝)

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

●ADLは食事介助以外は全介助、車イス使用、自操できないこと

【痴呆の状況】

- 対話可能だが、一方通行の事が多く意味不明なことを言う。
- 時々不穏状態になり、大声を出したり怒ったりすることがある。
- 記憶障害がある。

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

オムツ外し、便汚染、転倒の恐れなどがあるため、保護着、ベット柵4本、離床時には抑制帯も使用していた。

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- 離床時間の延長
- オムツ、保護着の取り外し
- 他者とのコミュニケーション
- 声掛けを頻繁に行う

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

H13.4の拘束廃止の通達により検討開始

保護着 日常着に変更

ベット柵4本 2本に変更

離床時間延長

日中オムツ パンツに変更

6 改善の成果

自力で車イス移乗

日中は自力でトイレに行く

夜間紙オムツ着用であるが、昼間のオムツを外したことにより全更衣が可能になった。

7 担当職員の感想、意見

表情が明るくなり、他者との会話も増え、ADLも少しだけだがなくなってきている。行動範囲が広くなり、レクリエーション、クラブ活動にも積極的に参加している。